輝け　未来へ　中番校

No one will be left behind

明日は、七十二候「虹始見（にじはじめてあらわる）」です。
－Change（変革）,Challenge（挑戦）,Continue（継続）－

明日は、七十二候でいう「虹始見（にじはじめてあらわる）」です。意味は「冬にはあまりなかった虹が現れ始める頃」ということです。これからの季節は夏にかけて大気の状態が不安定な日があり、夕立が多くなります。突然の雨の後、虹が見え始める季節です。春の深まりとともに空気が潤い、雨上がりに綺麗な虹が楽しみな季節です。こんな風に思うと春の雨も楽しみの一つになるかもしれませんね。

そこで、「虹（にじ）」について少し調べてみました。日本では虹は７色と言いますが、世界ではどうもそうではないようです。日本の虹色といえば赤、橙、黄、緑、青、藍、紫の７色ですが、これは日本での話です。アメリカなどでは一般的に６色（赤、橙、黄、緑、青、紫）、ドイツでは５色（赤、橙、黄、緑、青）、インドネシア（フローレス島）では４色（赤、黄、緑、青）、台湾（ブヌン族）では３色（赤、黄、紫）、南アジア（バイガ族）では２色（赤、黒）といわれていて、国や地域によってかなり違うようです。では、見えている虹が国や地域によって違うのかというとそういうことではなくて、これは、対象のものを何色ととらえるかが国や地域によってそれぞれ違っていたり、そもそも色に名前がついていなかったりするためだそうです。つまり、虹が何色あるかというより、何色と見ようとするかによるもののようです。また、英語で虹は「Rainbow」ですが、これは「雨の弓」という意味だそうです。「レインボー」は日本でも親しみのある単語でよく使われていますが、「弓」と見立てたのはとてもおもしろくて素敵な見立てだなあと思いました。さらに、虹は「虫偏」がついていますが、昔からどうも不思議な感じがしていました。虹と虫がなかなか結び付かない感じがしませんか。これはどうしてだろうと思っていると、一つそうかなあと思えるものがありました。どうも虹は昔から世界中でさまざまな神話と結びつき、いろいろなものに見立てられてきたようです。中国では虹を「空にあらわれる大きな蛇」と見る考え方があったようです。大きな蛇が天に昇り、龍になると考えられていたということです。虫と蛇でもその大きさから考えるとなかなか結び付けることは難しい感じもありますが、虹そのものの様子と結びつかないものが結び付くということがあるのだということは分かりました。きっと、虹は昔の人たちにとって想像を超えた神秘的な現象であり、様々なものに結び付いたのかもしれないと改めて思いました。

さて、新学期が始まって１週間が過ぎました。「まだ、一週間。」「もう、一週間。」とその感じ方は人によって、また、大人と子供によっても違うと思います。ただ、人は初めて見るもの、聞くもの、体験するもの、経験することが多いと、長く感じる傾向があるそうです。ですから、きっと子供達はこの一週間、学級で次々と決まっていく係や当番、教科の学習が始まった等、新しい事が一杯あったので長く感じていることだろうと思います。

先週の金曜日、第１回委員会活動があり、４月、５月の生活目標が決まりました。この生活目標は、児童会の中の運営委員会が決めています。**「①右・左・右を見て、横断歩道をわたろう」「②笑顔満点で大きなあいさつをしよう」「③みんなで仲良く外で遊ぼう」**です。これらの生活目標から、子供達がこの４月、５月何を大切にしたいのかが読み取れます。１つ目は安全な登下校。２つ目は気持ちのよい挨拶が交わされる明るい学級、学校。３つ目は友達と遊んでもっと仲良くなりたい。という願いが読み取れます。子供達が願う学級、学校にしていくため、子供達と共に私達職員も頑張りたいと思います。そこで、この生活目標の具現化に向けた各学級での取組が大変重要となります。**この目標達成に向けどのように取り組むのか。そして、その評価（達成度）をどのようにしていくのか、各学級での取組に期待しています。**

新型コロナウイルス感染症は、まだまだ心配です。益々、一人一人の行動が重要だと感じています。決して気を緩めることなくその対策を継続し、徹底して、きちんと行っていけるよう指導を続けたいと考えています。保護者の皆様にも引き続き、児童の朝の検温、体調管理等、感染症対策について、ご理解とご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。中番小学校は、子供達、保護者の皆様、地域の皆様と共に歩んでいきます。